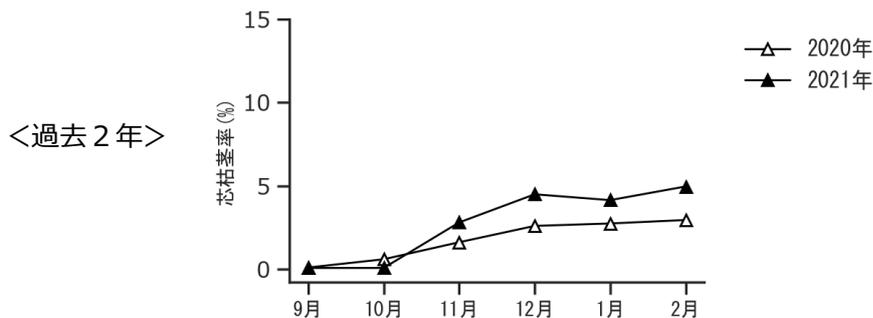
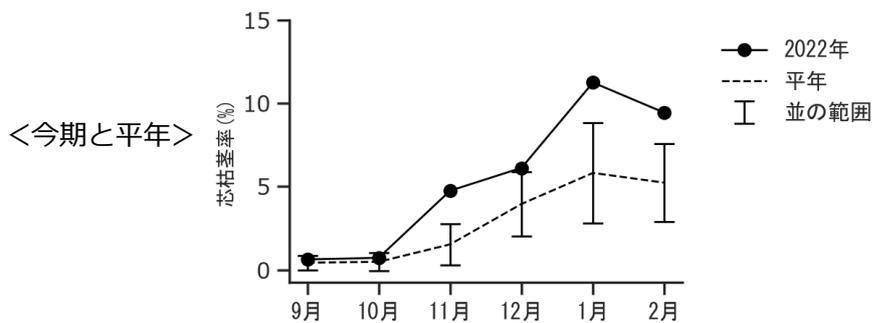


作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	メイチュウ類(カンシャシクイハマキ・イネヨトウ)		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	やや多	
予 報	2 月からの増減傾向	—	
	3 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

芯枯茎率の推移



- ・発生ほ場率93.8% (平年：94.7%)、優先種はカンシャシクイハマキであった。
- ・病害虫防除員情報：波照間島、久米島で甚、伊是名島で多であった。

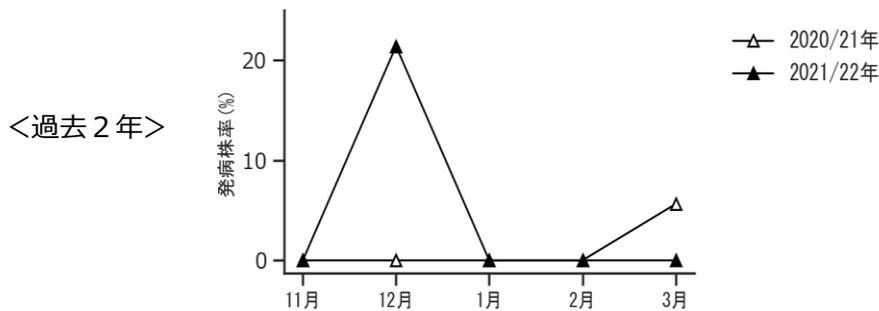
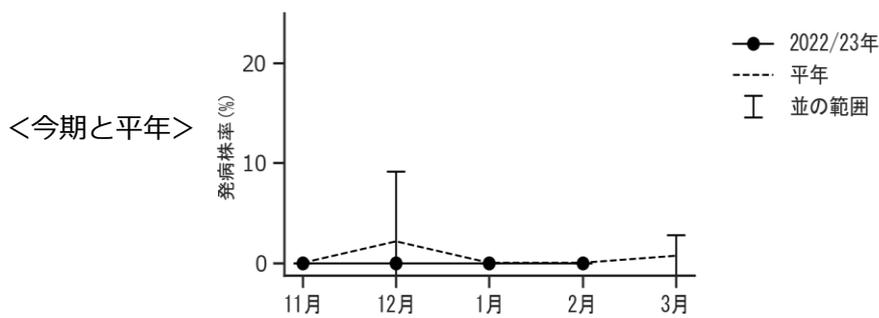
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	キャベツ	地域	沖縄群島
病害虫名	黒腐病		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
予報	2 月からの増減傾向	↗	
	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

発病株率の推移



・発生ほ場率0% (平年 : 0%)

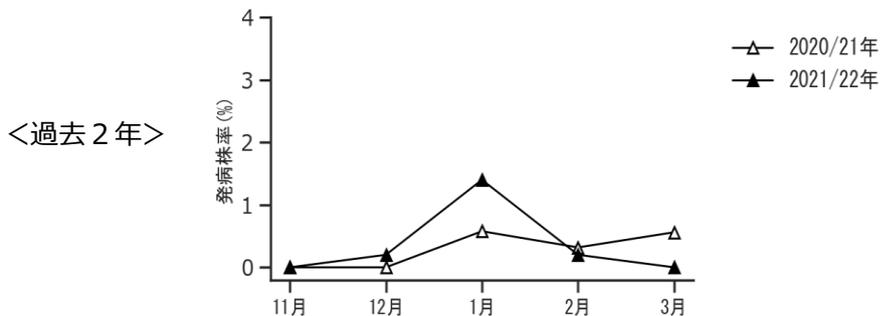
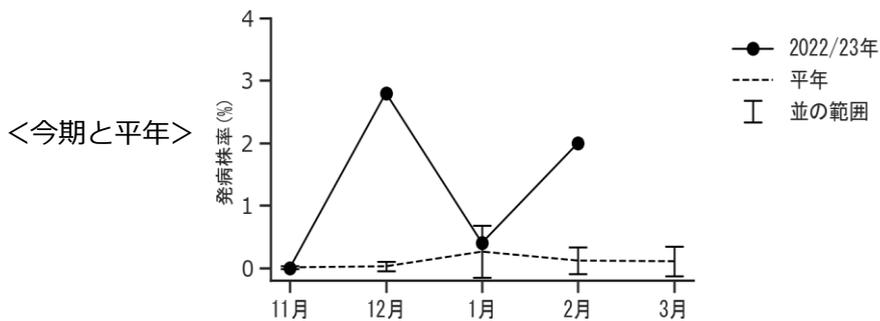
防除のポイント

- ・ほ場の排水を良くするとともに、密植栽培を避けて通風をよくする。
- ・害虫の食害痕は病原菌の侵入口となるので、害虫の防除も徹底する。

作物	キャベツ	地域	沖縄群島
病害虫名	① 菌核病		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	やや多	
予 報	2 月からの増減傾向	→	
	3 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

発病株率の推移



・発生ほ場率60.0% (平年 : 13.3%)

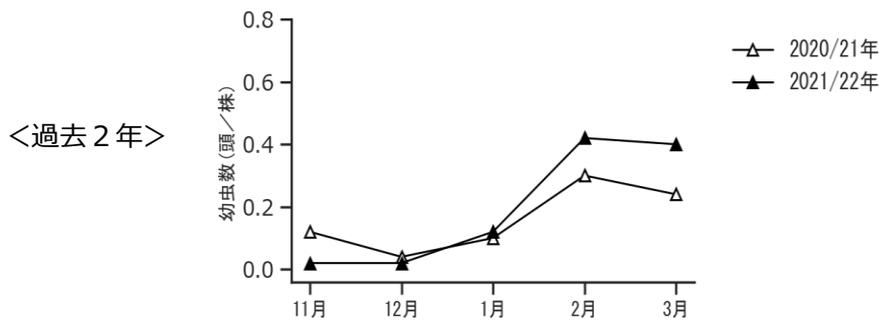
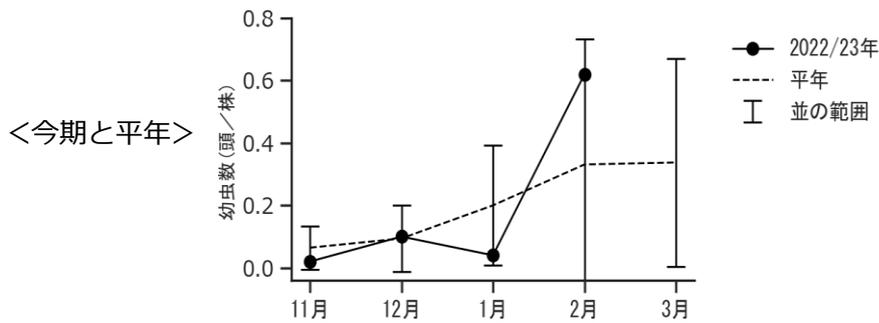
防除のポイント

- ・密植栽培を避けて、通風をよくする。
- ・被害株は菌核を形成しないうちに早めに抜き取り、ビニール袋に入れるなどしてほ場外に持ち出し処分する。
- ・本病が発生しやすい作物での輪作・連作は避ける。
- ・多発したほ場は、休閑期に天地返しや土壌消毒を行う。

作物	キャベツ	地域	沖縄群島
病害虫名	② コナガ		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並	
予報	2 月からの増減傾向	→	
	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

幼虫数の推移



・発生ほ場率100% (平年 : 66.7%)

防除のポイント

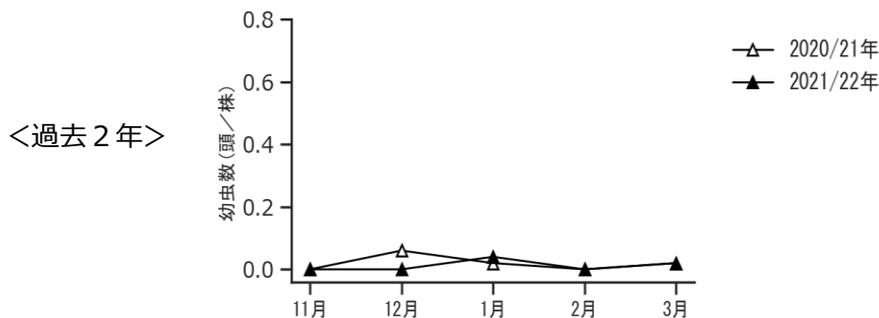
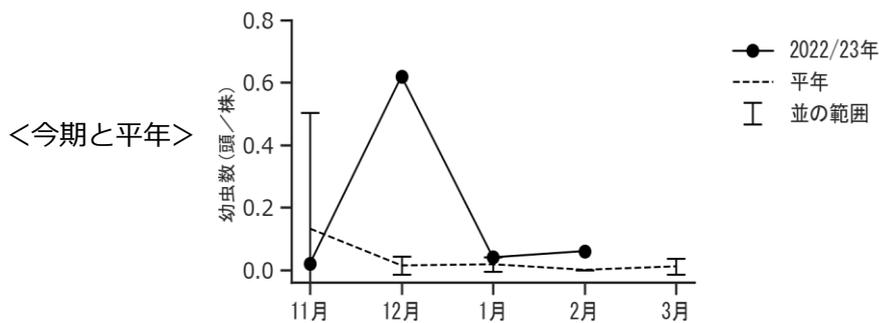
- ・ほ場周辺のアブラナ科雑草の除去および収穫後の残さ処理を徹底し、ほ場管理に努める。
- ・多発すると防除が困難になるので、低密度時に薬剤防除を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	キャベツ	地域	沖縄群島
病害虫名	③ チョウ目幼虫		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	多	
予報	2 月からの増減傾向	→	
	3 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	



調査結果

幼虫数の推移



- ・発生種：モンシロチョウ
- ・発生ほ場率40.0% (平年：0%)

防除のポイント

- ・ほ場内の除草および収穫後の残さ処理を徹底し、ほ場管理に努める。
- ・老齢幼虫に対しては薬剤効果が低減するので、食害痕を発見したら、速やかに薬剤を散布する。



ハスモンヨトウ

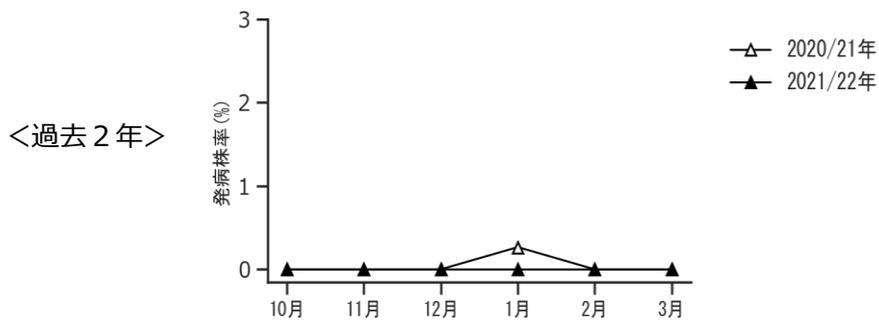
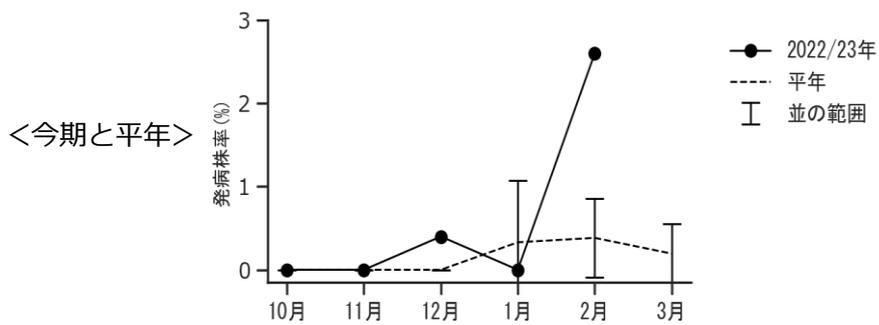


タマナギンウワバ

作物	レタス	地域	沖縄群島
病害虫名	① 菌核病		
調査結果	2 月の発生量（平年比）	多	
予報	2 月からの増減傾向	↓	
	3 月の発生量（平年比）	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↓）	

調査結果

発病株率の推移



・発生ほ場率60.0%（平年：26.0%）

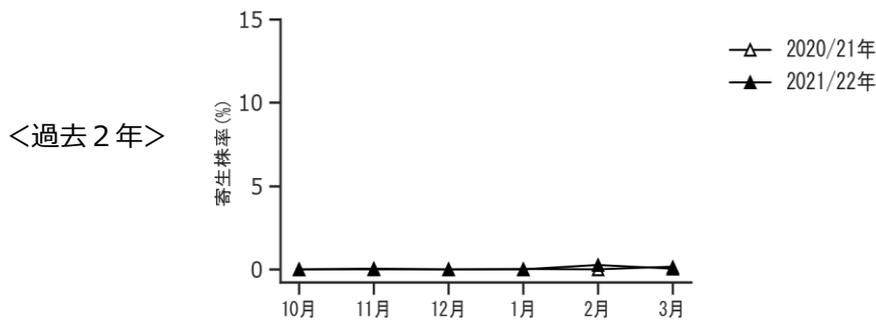
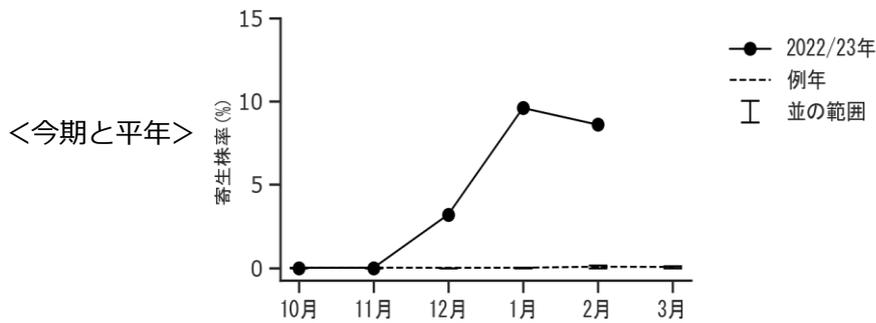
防除のポイント

- ・密植栽培を避けて、通風をよくする。
- ・被害株は菌核を形成しないうちに早めに抜き取り、ビニール袋に入れるなどしてほ場外に持ち出し処分する。
- ・本病が発生しやすい作物での輪作・連作は避ける。
- ・多発したほ場は、休閑期に天地返しや土壌消毒を行う。

作物	レタス	地域	沖縄群島
病害虫名	② アブラムシ類		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	2 月からの増減傾向	→	
	3 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		例年の発生量の推移 (→)	

調査結果

寄生株率の推移



・発生ほ場率100% (例年：20.0%)

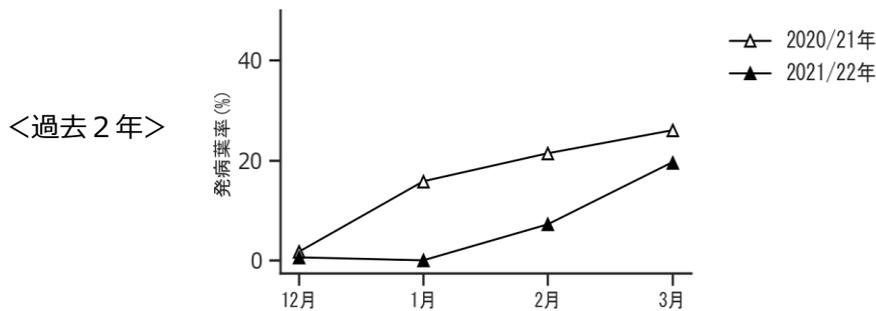
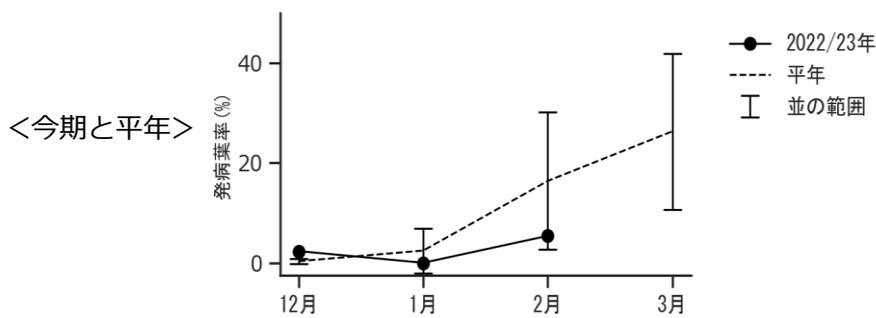
防除のポイント

- ・ 植え付け時に粒剤を施用し、初期防除に努める。
- ・ 早期発見に努め、適宜薬剤散布を行う。
- ・ ほ場周辺の雑草はアブラムシ類の発生源になるため除去する。

作物	かぼちゃ	地域	沖縄群島
病害虫名	① うどんこ病		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	2 月からの増減傾向	↗	
	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

発病葉率の推移



- ・発生ほ場率40.0% (平年 : 55.0%)
- ・防除員報告 : 多発生 (北部地区)

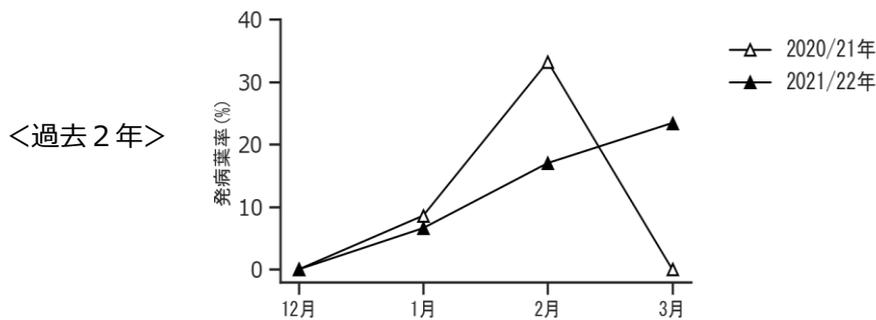
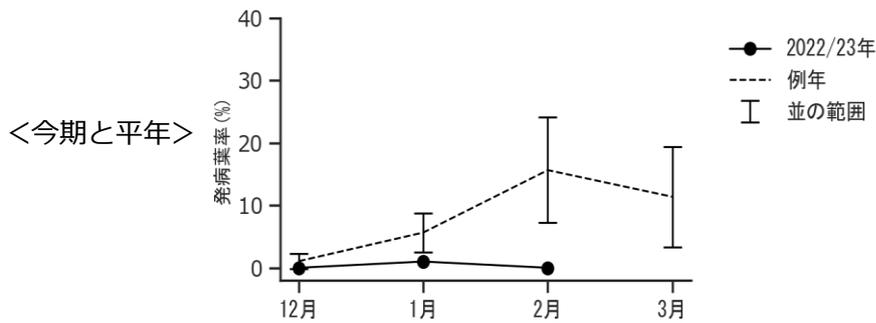
防除のポイント

- ・着果期以降は草勢の低下に伴い被害が急激に広がる場合があるので防除を徹底する。
- ・発生源となる老葉や不要な下葉を除去し、透光通風を良くする。
- ・窒素質肥料の多用を避け、予防散布を行う。
- ・薬剤耐性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	かぼちゃ	地域	沖縄群島
病害虫名	斑点・褐斑細菌病		
調査結果	2 月の発生量（平年比）	やや少	
予報	2 月からの増減傾向	↓	
	3 月の発生量（平年比）	やや少	
予報の根拠		例年の発生量の推移（↓）	

調査結果

発病葉率の推移



・発生ほ場率0%（例年：70.0%）

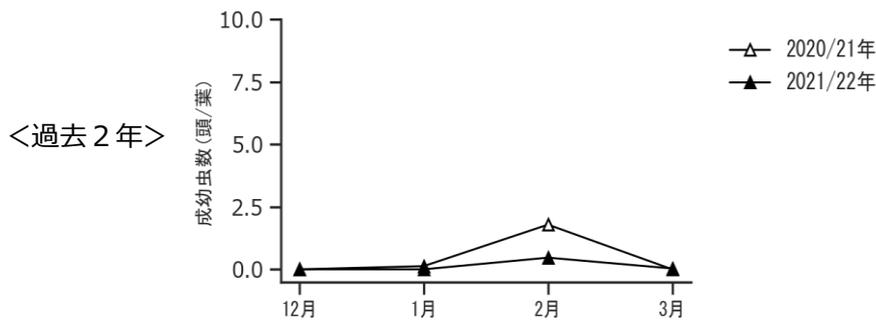
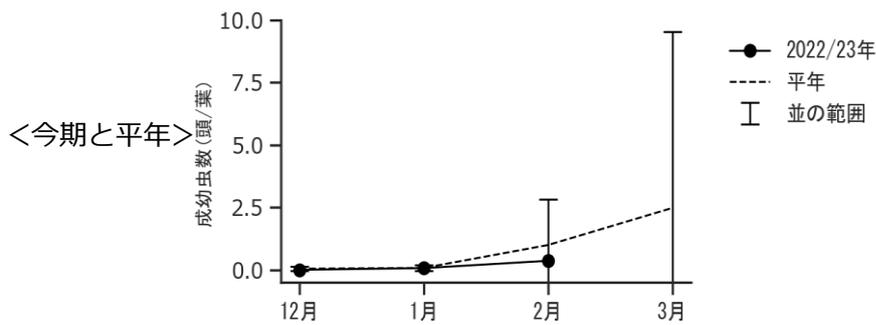
防除のポイント

- ・強風による葉すれ等の傷口から感染するため、防風垣（ソルゴーや防風ネット等）を設置する。
- ・降雨や強風などの気象条件が続くと急激に広がる場合があるので、強風降雨の後は薬剤散布を行う。

作物	かぼちゃ	地域	沖縄群島
病害虫名	② アブラムシ類		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並	
予報	2 月からの増減傾向	↗	
	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

成幼虫数の推移



・発生ほ場率100% (平年 : 73.3%)

防除のポイント

- ・アブラムシ類はズッキーニ黄斑モザイクウイルスやパパイヤ綸点ウイルス等を媒介する。
- ・ほ場周辺に防風対策を兼ねた防虫ネットやソルゴー等を設置し、有翅虫の飛来侵入を防ぐ。
- ・葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・ほ場周辺の雑草はアブラムシ類の発生源になるので除去する。

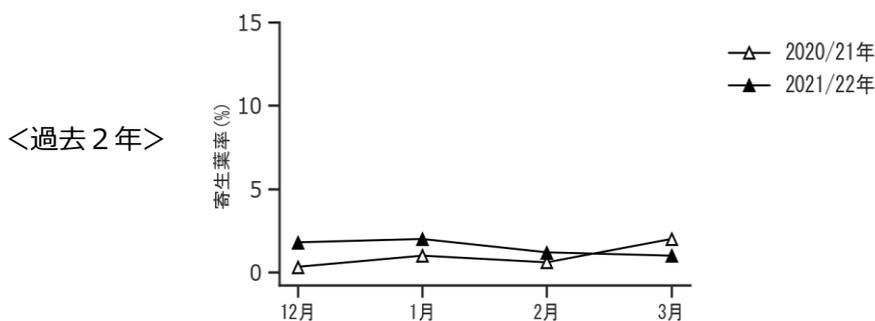
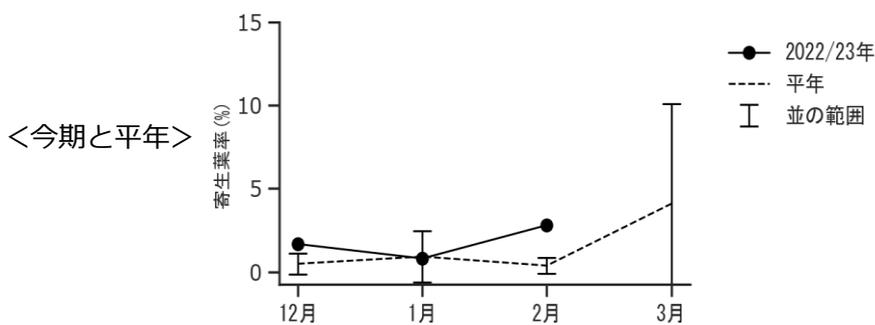


無翅虫

作物	かぼちゃ	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハモグリバエ類		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	多	
予報	2 月からの増減傾向	↗	
	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

寄生葉率の推移



・発生ほ場率80.0% (平年 : 17.1%)

防除のポイント

- ・多発すると防除が困難になること、また寄生痕からうどんこ病や細菌性病害が侵入する場合があることから、発生初期の防除を徹底する。
- ・幼虫期間が短いため、葉面に産卵痕や食害痕が見え始めたら防除を開始する。
- ・防除効果は幼虫の体色で判断する。生存時は黄色で死亡すると黒変する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ほ場周辺の雑草はハモグリバエ類の発生源になるため除去する。

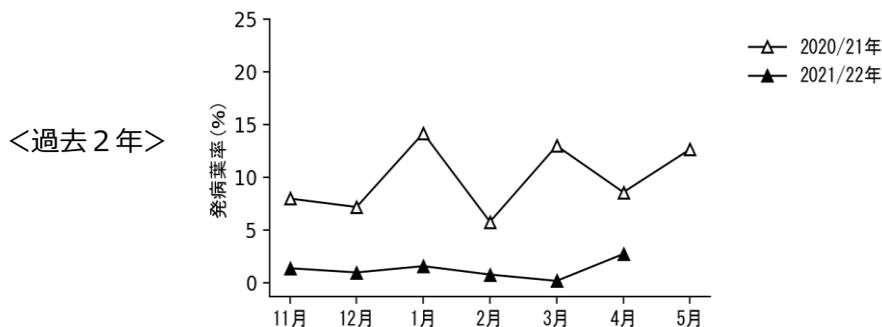
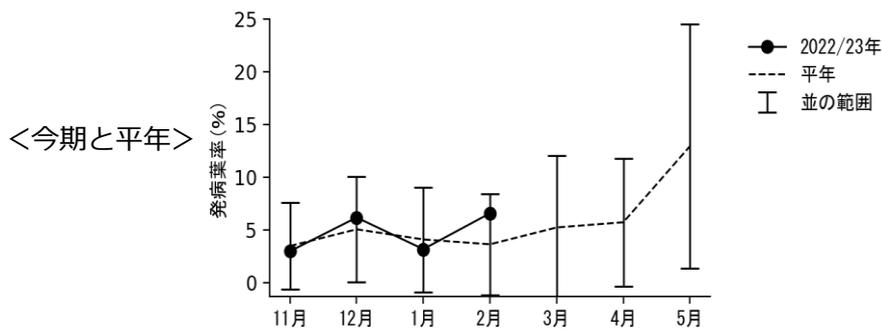
幼虫の死骸
(農薬などで死亡すると黒色に変色)



作物	ニガウリ(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	① うどんこ病			
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並		
予 報	2 月からの増減傾向	↗		
	3 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

発病葉率の推移



・発生施設率40.0% (平年 : 38.0%)

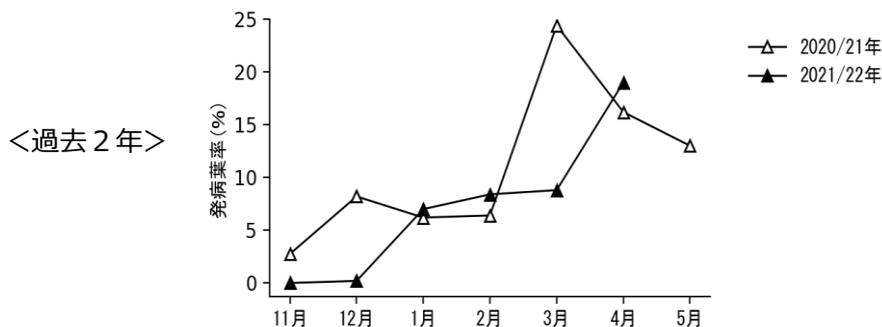
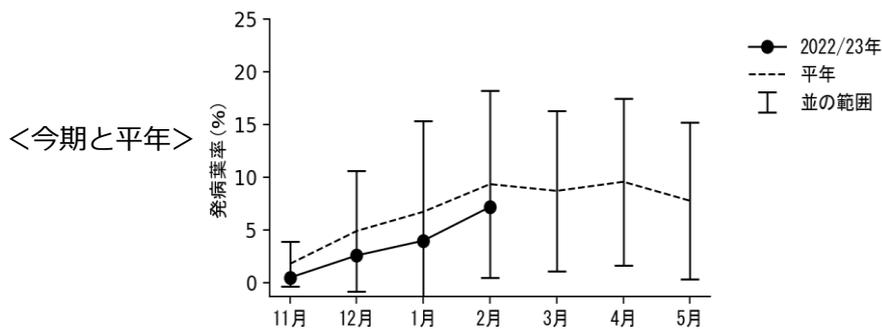
防除のポイント

- ・老葉や病葉は発生源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

作物	ニガウリ(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	② 斑点病			
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並		
予報	2 月からの増減傾向	→		
		3 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

発病葉率の推移



・発生施設率80.0% (平年 : 68.0%)

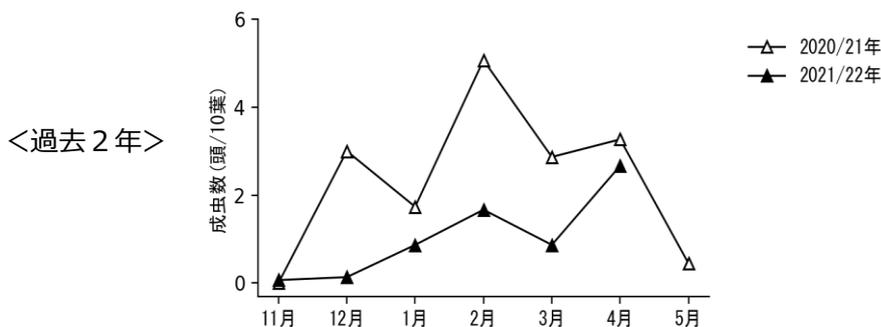
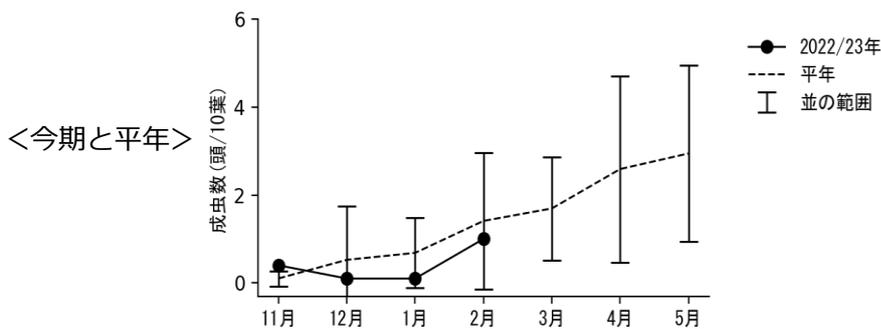
防除のポイント

- ・葉には周囲が黄色で中央が灰色の円形病斑を形成し、果実では表面にすす状のカビを生じる。
- ・老葉や病葉は発生源になるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・過繁茂を避け、透光通風をよくする。
- ・多湿条件で発生が助長されるため、湿度管理に注意する。
- ・雨漏りする場所での発生が多くなるため、ビニールの破れ等は補修する。

作物	ニガウリ(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	③ ミナミキイロアザミウマ			
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並		
予報	2 月からの増減傾向	↗		
	3 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

成虫数の推移



・発生施設率80.0% (平年：41.0%)

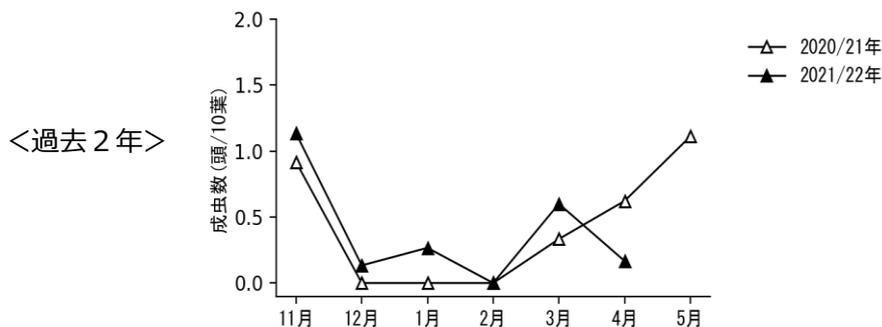
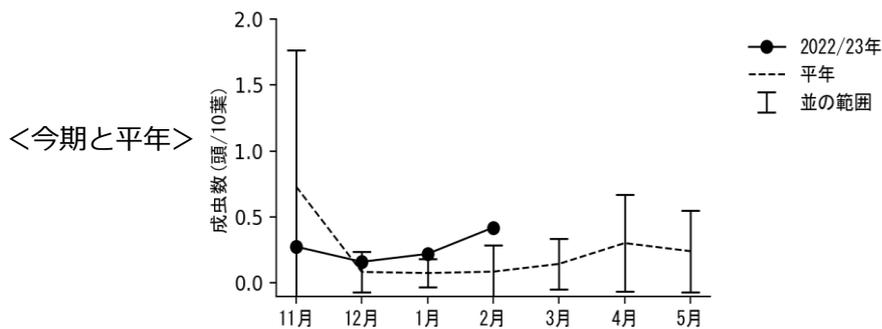
防除のポイント

- ・本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、スイカ灰白色斑紋ウイルスを媒介する。
- ・施設の出入口や天窓は目合い0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	ニガウリ(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	④ タバココナジラミ			 <p>成虫</p>
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報	2 月からの増減傾向	→		
	3 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

成虫数の推移



・発生施設率80.0% (平年：7.7%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合い0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

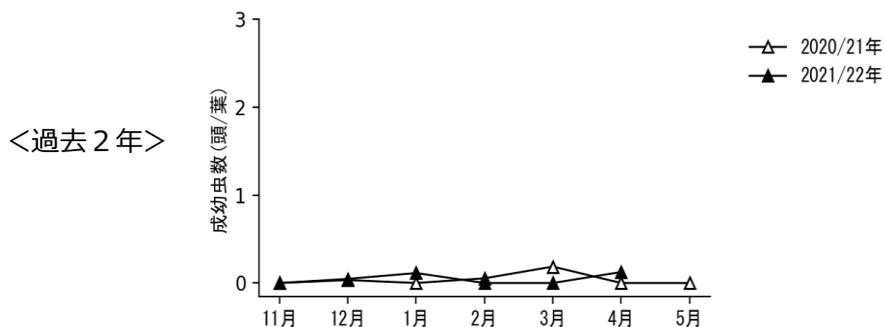
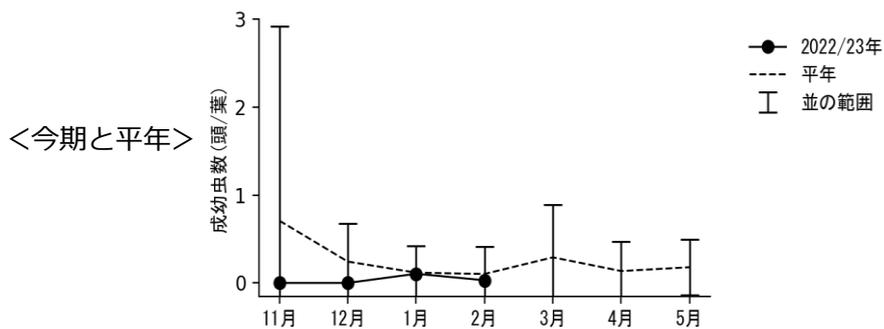


幼虫

作物	ニガウリ(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ アブラムシ類			
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並		
予報	2 月からの増減傾向	↗		
	3 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

成幼虫数の推移



・発生施設率20.0% (平年 : 7.7%)

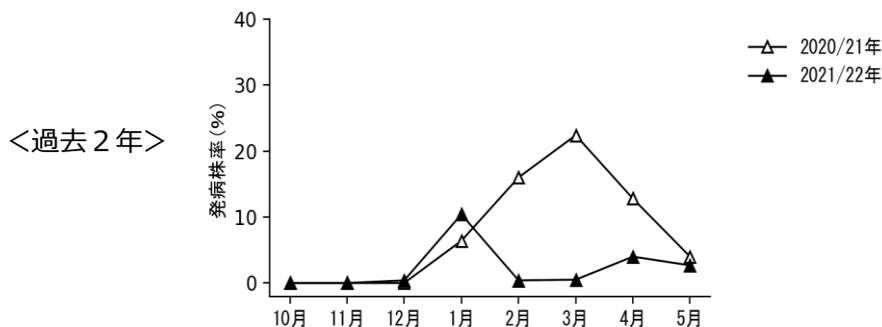
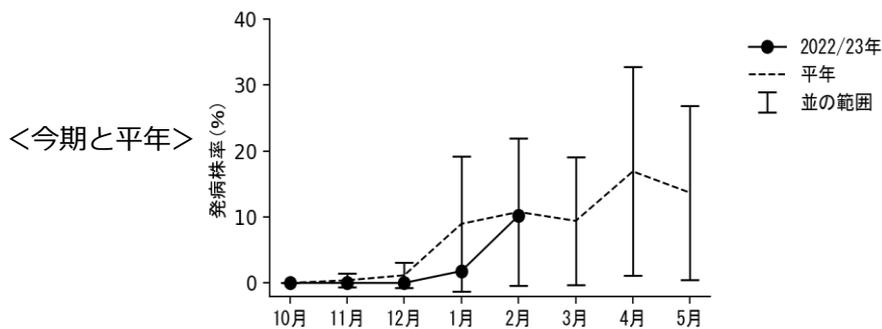
防除のポイント

- ・アブラムシ類はズッキーニ黄斑モザイクウイルスやパパイヤ綸点ウイルス等を媒介する。
- ・施設の出入口や天窗は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、有翅虫の侵入を防ぐ。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・早期発見に努め、薬剤が葉裏にかかるよう丁寧に散布する。

作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	① うどんこ病			
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並		
予報	2 月からの増減傾向	→		
	3 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

発病株率の推移



・発生施設率80.0% (平年 : 38.2%)

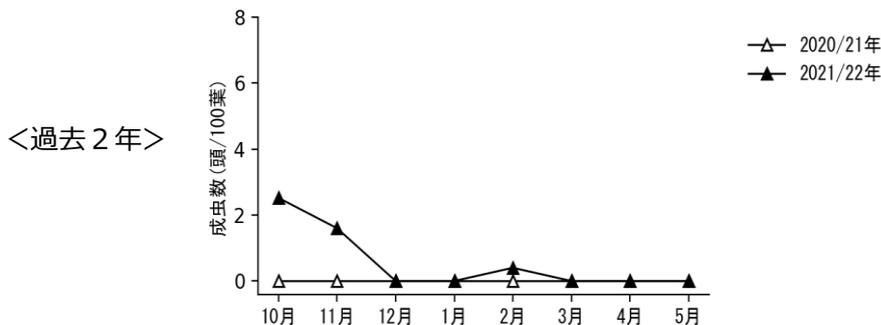
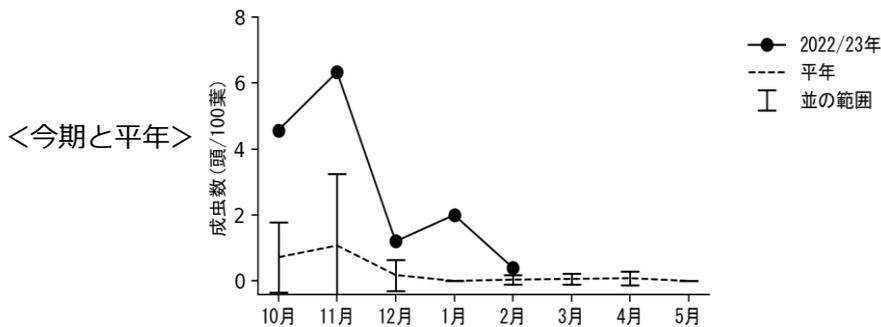
防除のポイント

- ・病葉は発生源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・多発すると防除が困難となるので、葉をよく観察し早期発見・防除に努める。

作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	② ミナミキイロアザミウマ			
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並		
予報	2 月からの増減傾向	→		
	3 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

成虫数の推移



・発生施設率20.0% (平年：2.0%)

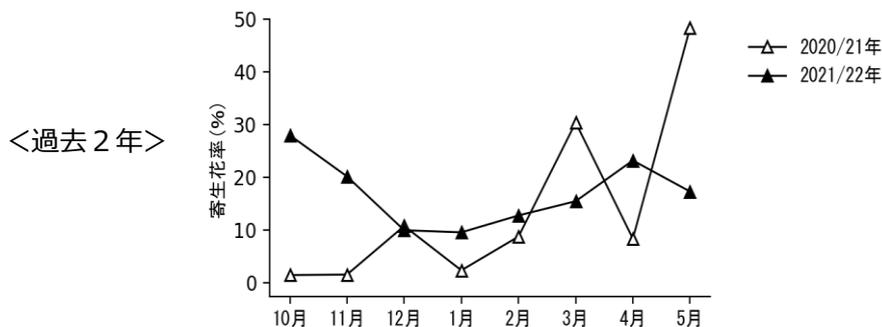
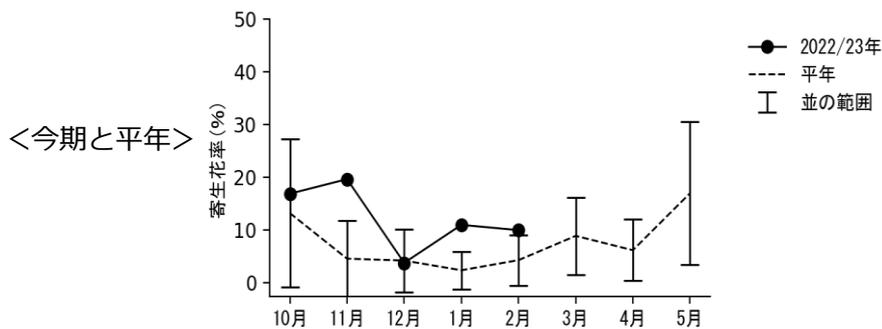
防除のポイント

- ・本種はスイカ灰白色斑紋ウイルス等を媒介する。
- ・施設の出入口や天窗は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、青色粘着板等を用い早期発見・防除に努める。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を選定する。

作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	③ ヒラズハナアザミウマ			
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並		
予報	2 月からの増減傾向	↗		
	3 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

寄生花率の推移



・発生施設率80.0% (平年：28.0%)

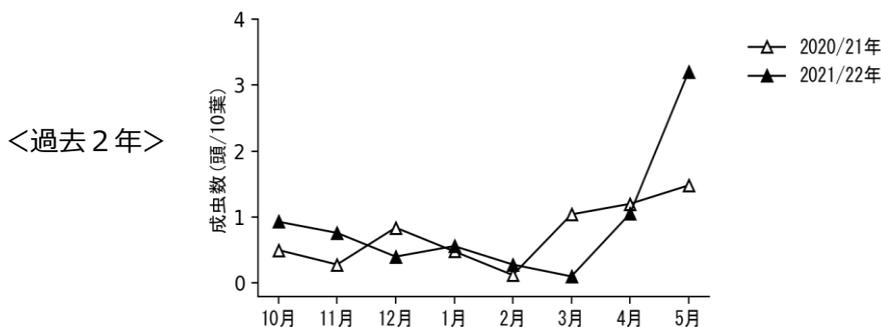
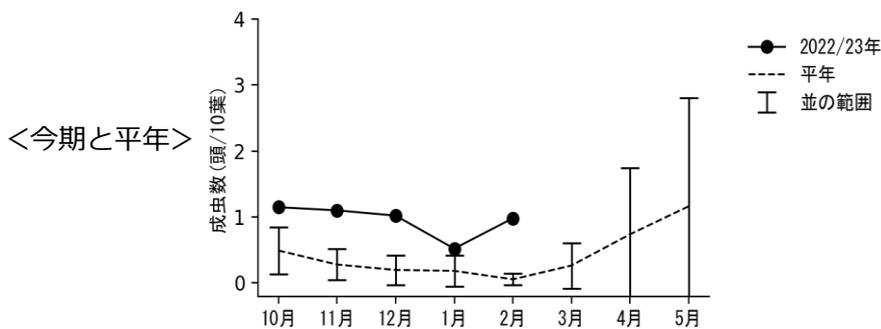
防除のポイント

- ・本種は主に花に寄生し、多発すると産卵により果実へタ部や果梗部が黒変する。
- ・施設の出入口や天窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、初期防除に努める。
- ・発生源となる施設内外の雑草除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない薬剤を選定する。

作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	④ タバココナジラミ			 <p>成虫</p>
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報	2 月からの増減傾向	↗		
	3 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

成虫数の推移



・発生施設率60.0% (平年：12.0%)、一部施設で多発

防除のポイント

- ・施設の出入口や天窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・本種は、多発すると果実の着色異常やすす病を引き起こすため、早期発見・防除に努める。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を選定する。

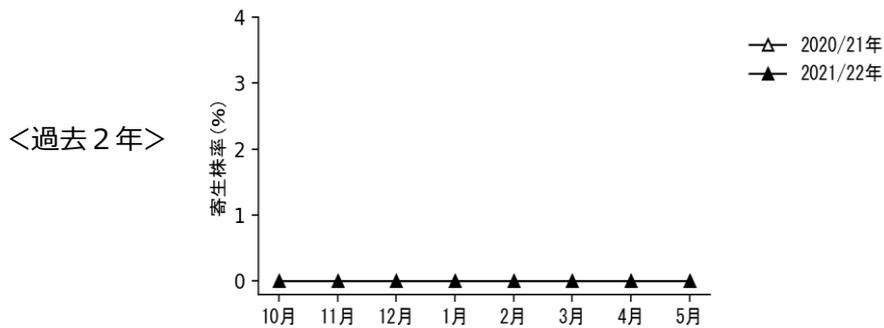
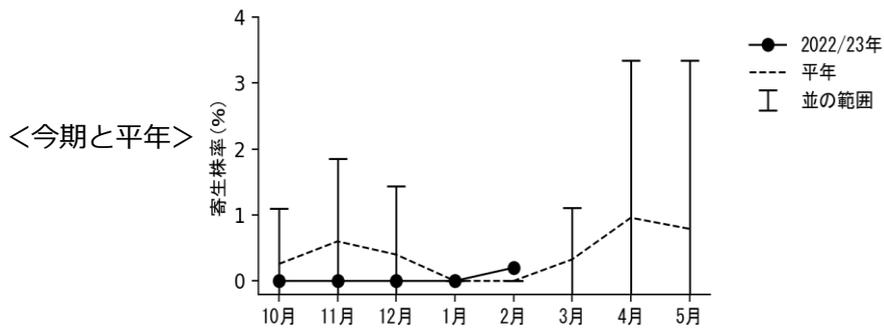


幼虫

作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ハダニ類			
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並		
予報	2 月からの増減傾向	↗		
	3 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

寄生株率の推移



・発生施設率10.0% (平年 : 0%)

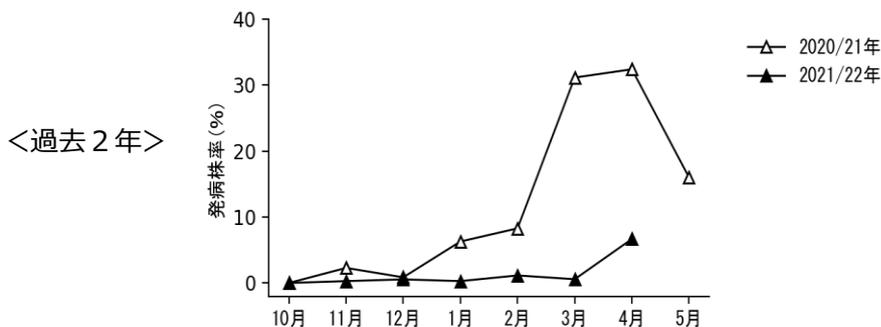
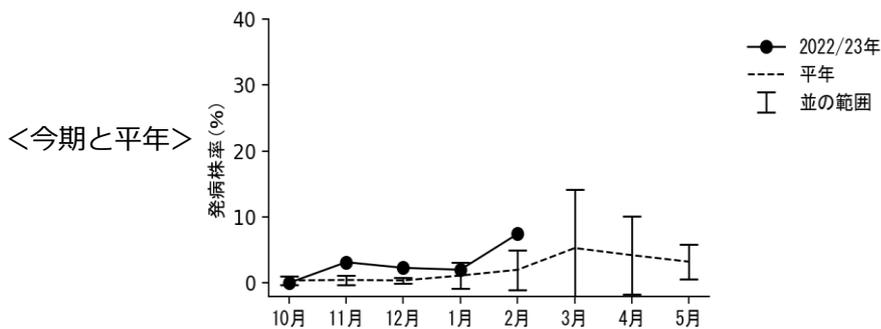
防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。

作物	トマト(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	① 黄化葉巻病		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	やや多	
予 報	2 月からの増減傾向	↗	
	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

発病株率の推移



・発生施設率100% (平年：23.9%)

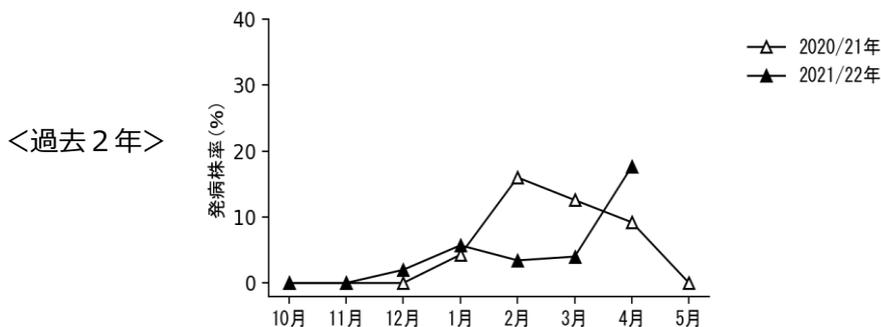
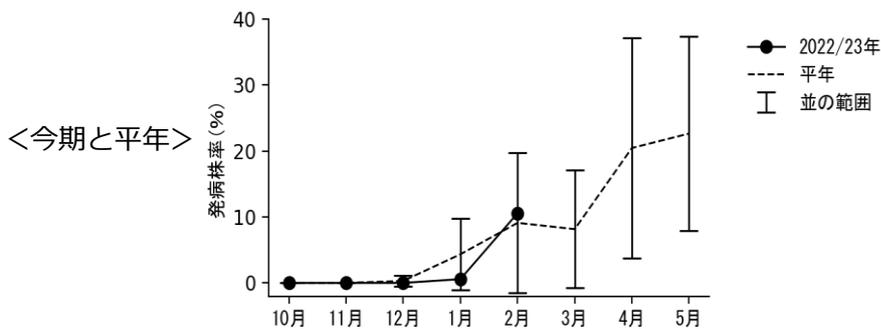
防除のポイント

- ・媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。
- ・感染株や摘葉残さは感染源となるため、施設外に持ち出しビニール袋に入れるなどして密閉処分する。
- ・ムラサキカタバミやノグシ等の雑草は本病に感染し、次期作の伝染源となるため除去する。

作物	トマト(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	② うどんこ病			
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並		
予報	2 月からの増減傾向	→		
	3 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

発病株率の推移



・発生施設率42.9% (平年 : 31.3%)

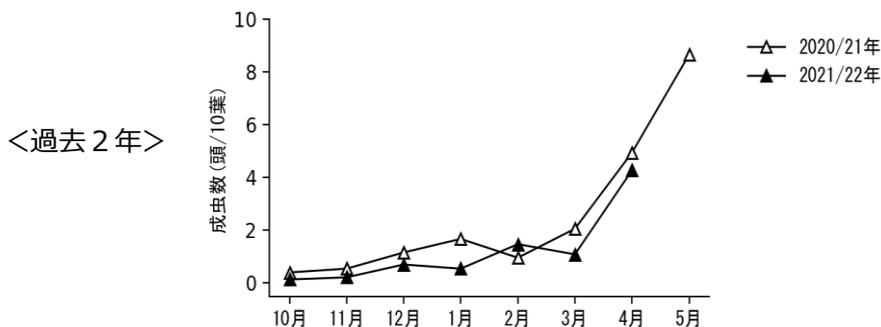
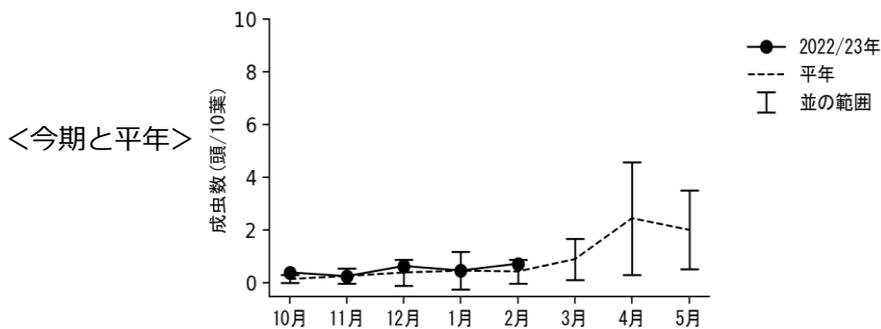
防除のポイント

- ・通風が悪いときに多発しやすいので、老葉を除去し、透光通風を良くする。
- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・多発すると防除が困難となるので、葉をよく観察し早期発見・防除に努める。

作物	トマト(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	③ タバココナジラミ		 <p>成虫</p>
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並	
予報	2 月からの増減傾向	↗	
	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

成虫数の推移



・発生施設率100% (平年：48.5%)

防除のポイント

- ・本種はトマト黄化葉巻ウイルスを媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。

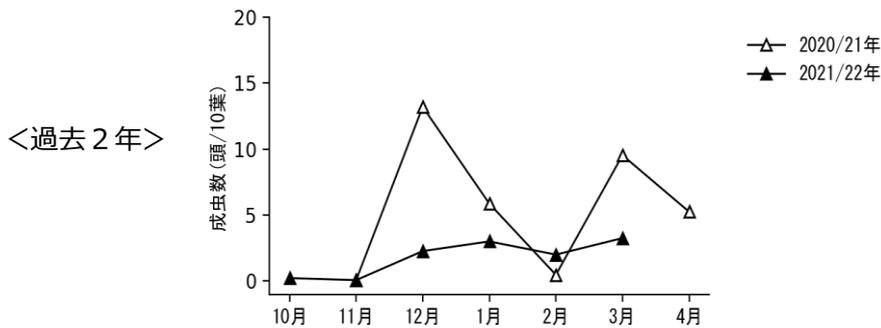
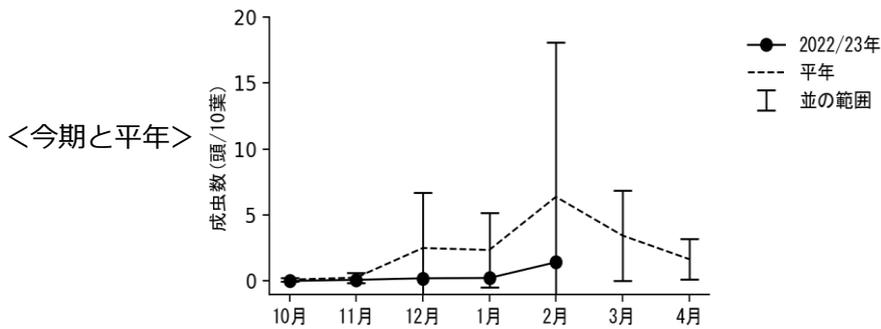


幼虫

作物	さやいんげん(平張)		地域	沖縄群島
病害虫名	① ミナミキイロアザミウマ			
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並		
予報	2 月からの増減傾向	↓		
	3 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)		

調査結果

成虫数の推移



・発生ほ場率100% (平年 : 63.2%)

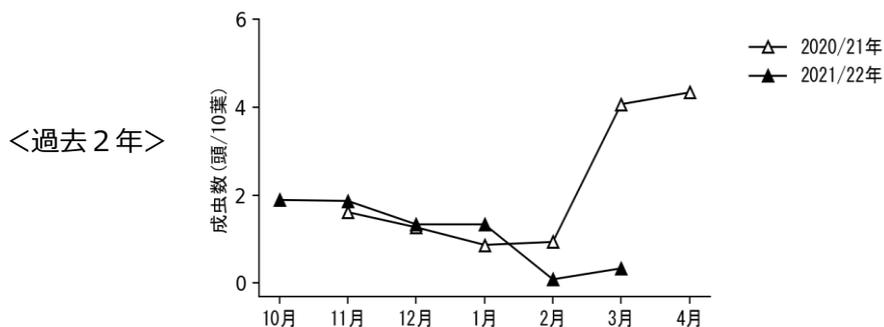
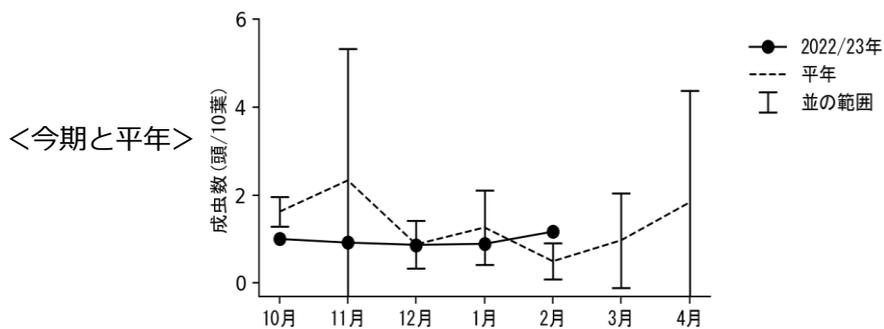
防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、ほ場内外の雑草除去に努める。
- ・多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	さやいんげん(平張)		地域	沖縄群島
病害虫名	② タバココナジラミ			 <p>成虫</p>
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報	2 月からの増減傾向	↗		
	3 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

成虫数の推移



・発生ほ場率100% (平年 : 63.4%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、ほ場内外の雑草除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

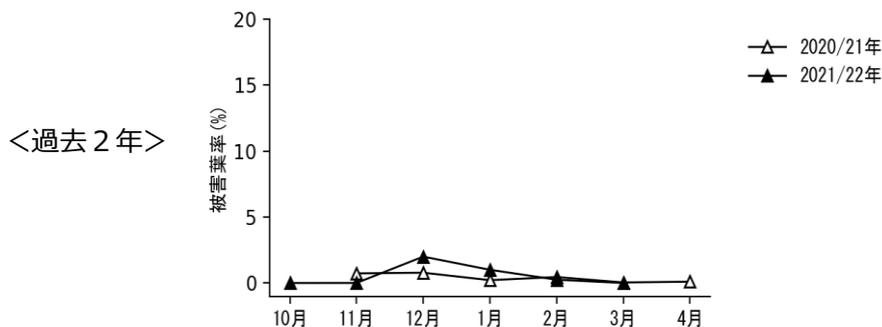
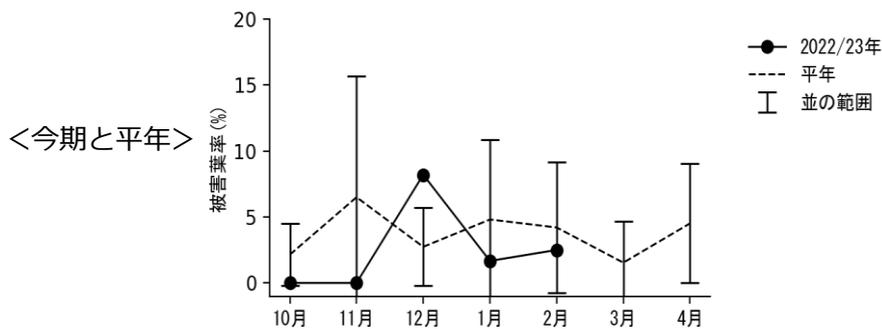


幼虫

作物	さやいんげん(平張)	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハモグリバエ類		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並	
予報	2 月からの増減傾向	↓	
	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

被害葉率の推移



・発生ほ場率25.0% (平年 : 60.7%)

防除のポイント

- ・摘葉等による残さは成虫の発生源となるので、ビニール袋に入れるなどして、ほ場外に持ち出し処分する。
- ・本種は薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・野外に多数の在来天敵が存在するため、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を使用する。

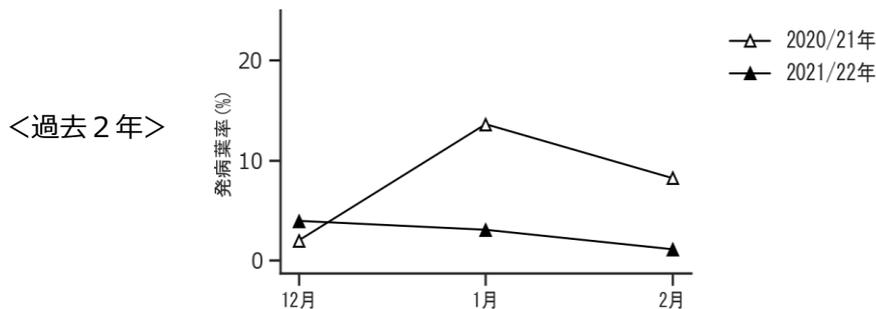
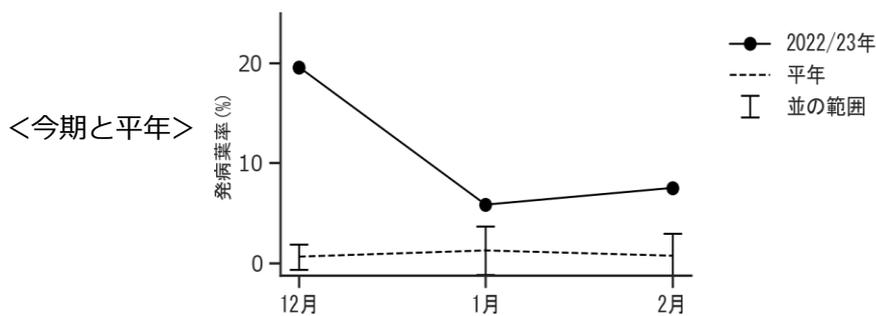


被害葉

作物	小ギク（彼岸出荷用）	地域	沖縄群島
病害虫名	黒斑・褐斑病		
調査結果	2 月の発生量（平年比）	多	
予 報	2 月からの増減傾向	—	
	3 月の発生量（平年比）	—	
予報の根拠			

調査結果

発病葉率の推移



・発生ほ場率50.0%（平年：15.1%）

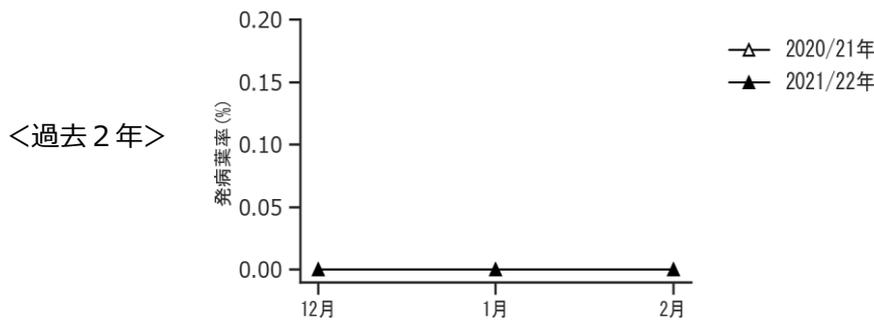
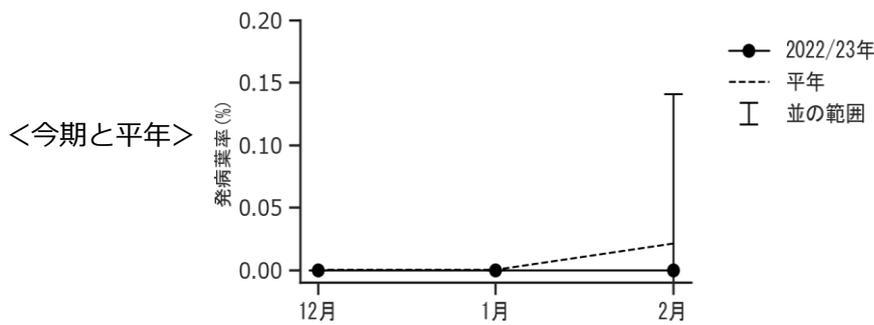
防除のポイント

- ・発病葉は速やかに除去する。
- ・肥料切れや窒素質肥料の過用は発生を助長するため、施肥管理を適正に行う。
- ・ほ場の排水・通風を良くする。
- ・水滴の跳ね上がりを防止するため、敷草を行う。
- ・発生が多い場合は薬剤散布により防除を徹底する。

作物	小ギク（彼岸出荷用）		地域	沖縄群島
病害虫名	白さび病			
調査結果	2 月の発生量（平年比）	(発生なし)並		
予報	2 月からの増減傾向	—		
	3 月の発生量（平年比）	—		
予報の根拠				

調査結果

発病葉率の推移



・発生ほ場率0%（平年：0.8%） ・防除員報告：少発生（伊江島、久米島）

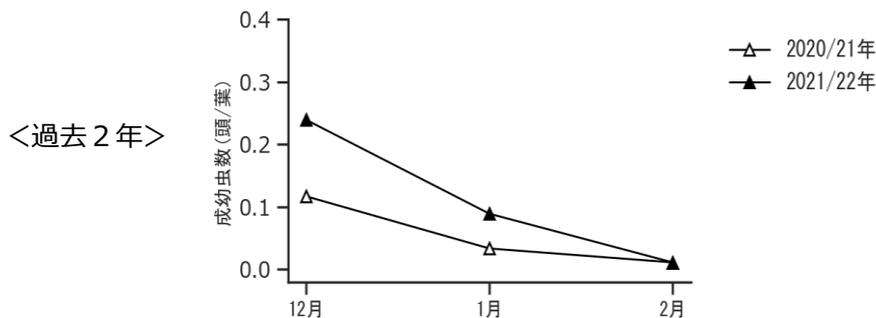
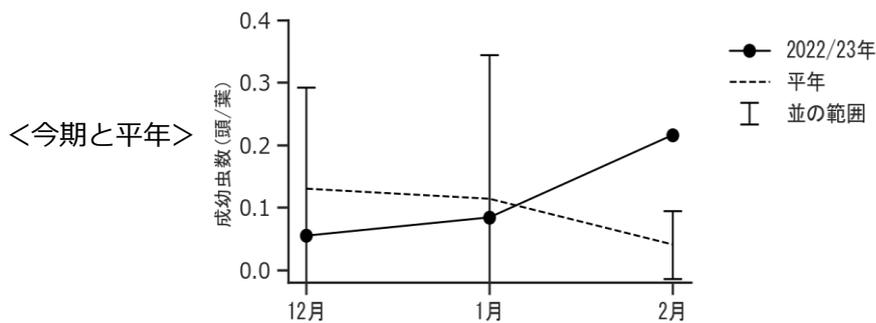
防除のポイント

- ・多湿条件下で発生するので、不要な下葉、脇芽は除去し、通風をよくする。
- ・発病葉は除去し、ビニール袋に入れるなどしてほ場外に持ち出し、焼却などの処分を行う。
- ・発生時期には予防散布を行うとともに、葉をよく観察し初期発生を見逃さない。
- ・薬剤耐性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・栽培終了後は近隣ほ場や次作の発生源にならないよう、不要な株は速やかに処分する。

作物	小ギク（彼岸出荷用）	地域	沖縄群島
病害虫名	アザミウマ類		 <p>クロゲハナアザミウマ</p>
調査結果	2 月の発生量（平年比）	多	
予報	2 月からの増減傾向	—	
	3 月の発生量（平年比）	—	
予報の根拠			

調査結果

成幼虫数の推移



- ・発生種：クロゲハナアザミウマ
- ・発生ほ場率75.0%（平年：26.1%）

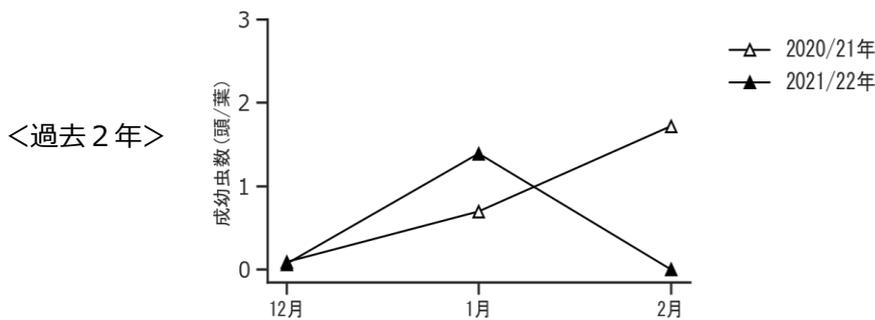
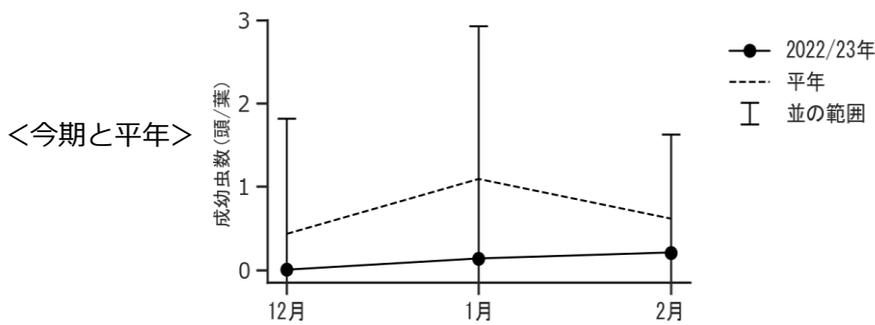
防除のポイント

- ・成虫は新葉や上位葉に、幼虫は上～中位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・同一ほ場内にあるキクは、異なる品種、異なる生長段階であっても、同時に防除を行う。
- ・地際部から新しく出てきた脇芽は、アザミウマが増殖しやすいので、早めに除去する。

作物	小ギク（彼岸出荷用）	地域	沖縄群島
病害虫名	アブラムシ類		
調査結果	2 月の発生量（平年比）	並	
予報	2 月からの増減傾向	—	
	3 月の発生量（平年比）	—	
予報の根拠			

調査結果

成幼虫数の推移



・発生ほ場率50.0%（平年：31.1%）

防除のポイント

- ・新葉部を中心に発生が認められたら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。

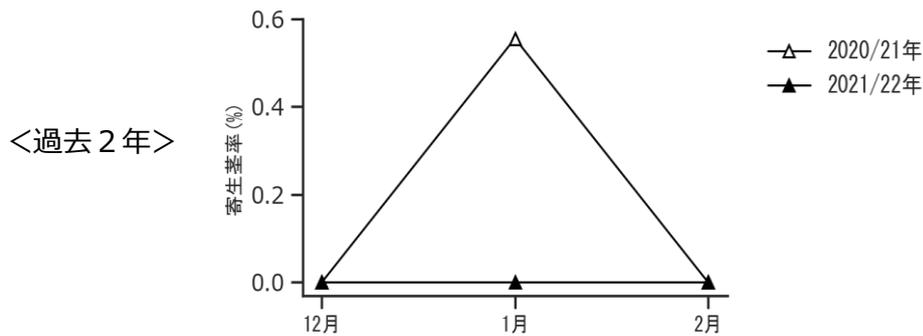
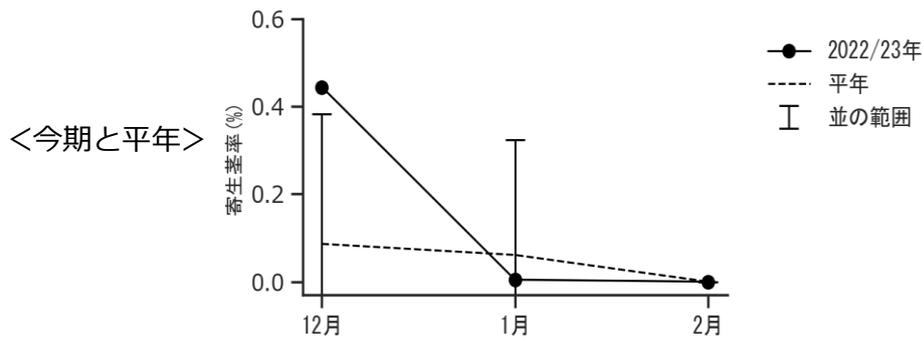


被害の様子

作物	小ギク（彼岸出荷用）	地域	沖縄群島
病害虫名	チョウ目幼虫		 <p>ハスモンヨトウ</p>
調査結果	2 月の発生量（平年比）	(発生なし)並	
予報	2 月からの増減傾向	—	
	3 月の発生量（平年比）	—	
予報の根拠			

調査結果

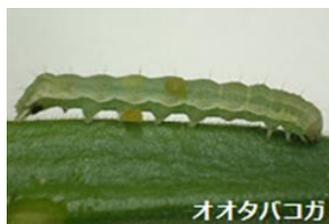
寄生茎率の推移



・発生ほ場率0%（平年：0%）

防除のポイント

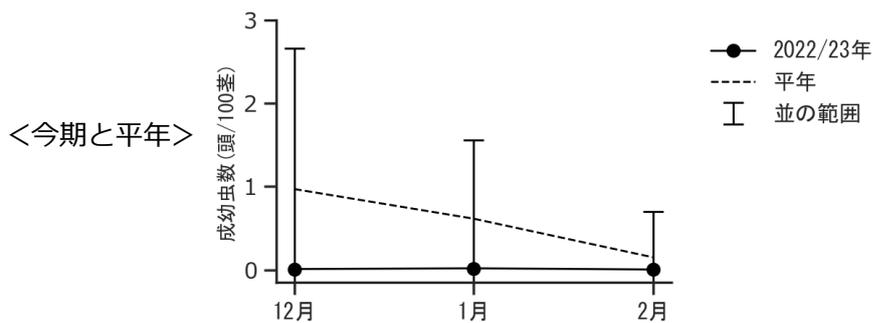
- ・卵塊や孵化幼虫の段階では捕殺の効果が高い。
- ・新しい食害痕や虫糞を見つけたら近くに幼虫がいないか調べ、幼虫を捕殺する。
- ・捕殺虫以外に周りに逃亡した幼虫もいる場合があるので薬剤散布も併用すると防除効果が高くなる。



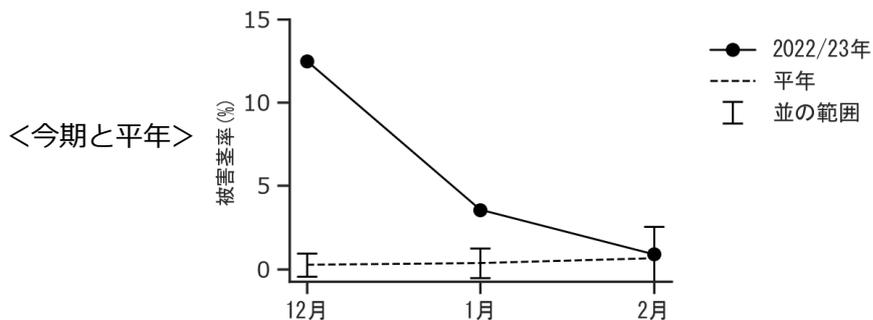
作物	小ギク（彼岸出荷用）	地域	沖縄群島
病害虫名	カスミカメ類		
調査結果	2 月の発生量（平年比）	並	
予報	2 月からの増減傾向	—	
	3 月の発生量（平年比）	—	
予報の根拠			

調査結果

成幼虫数の推移



被害茎率の推移



・発生ほ場率12.5%（平年：2.6%）

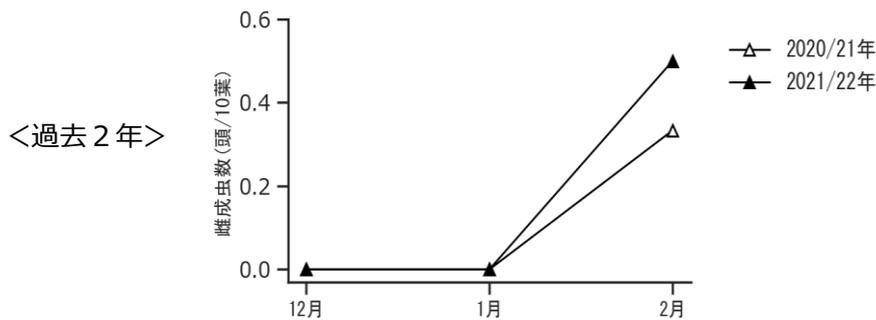
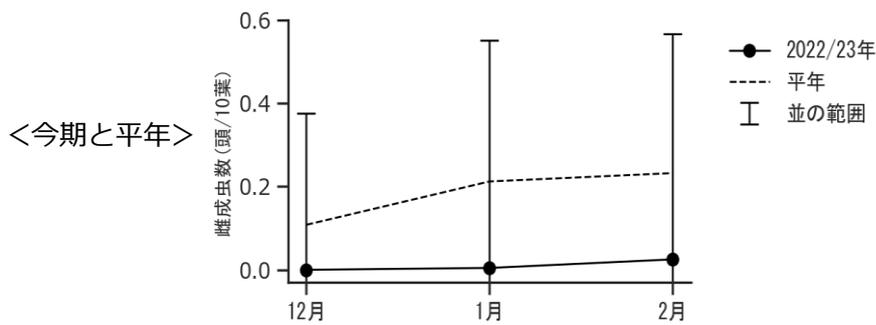
防除のポイント

- ・ほ場周辺に収穫残りのキク科雑草の花等があると発生源になる場合があるので除去する。
- ・防除は成虫の出現初期から5～7日おきに実施する。

作物	小ギク（彼岸出荷用）		地域	沖縄群島
病害虫名	ハダニ類			 <p>ナミハダニ</p>
調査結果	2 月の発生量（平年比）	並		
予報	2 月からの増減傾向	—		
	3 月の発生量（平年比）	—		
予報の根拠				

調査結果

雌成虫数の推移



・発生ほ場率25.0%（平年：15.5%）

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。